

平成31年 年頭の辞



海事振興部長 比企 栄作

平成31年の新しい年を迎え、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

九州運輸局では、本年も引き続き、九州の海事産業が元気になるための施策、支援に取り組んでまいります。

日本経済は、緩やかな回復基調が続いており、また、円安などを背景に、訪日外国人旅行者数が順調に推移するなど、運輸・観光業界においても、その好影響を受けているところです。

海外からのクルーズ船の誘致につきましては、「2020年に500万人」の誘客目標に向けて、九州においても港湾の整備やポートセールスが積極的に進められているところです。

そうした中、「国際旅客拠点形成港湾」については、佐世保、八代に続いて、昨年6月、新たに鹿児島が指定されるなど、国際クルーズ船の寄港拠点の充実・強化が図られているところであり、こうした動きは九州各地への更なる寄港を促進し、地域活性化にも寄与するものと期待しているところです。

一般旅客定期航路につきましては、公共交通機関として人流・物流の円滑な移動に大きな役割を担っており、安定的かつ継続的な運航が強く求められているところです。

特に九州の離島航路は全国の約3割を占めており、離島住民の生活に欠かせない交通手段として重要な役割を担っておりますが、島内の人口減少や少子・高齢化の進展により厳しい経営環境となっております。

そうした中、昨年10月には長崎県の離島において、運航事業者の経営の行き詰まりから突然運航が停止され、利用者利便が大きく低下するという事態が発生しました。離島航路は、島民の日々の暮らしに欠かせない重要な生活インフラであることから、九州運輸局では、今後も必要な輸送サービスが適切に提供されるよう「地域公共交通活性化維持改善事業」等を通じて、経営の安定と航路の維持・活性化に向けた諸施策を積極的に取り組んでまいります。

また、本年は航路の利用促進や活性化に向けた方策を検討するため、局内に「海上旅客航路維持・活性化支援推進本部」を設置し、関係自治体と密接に連携しながら、必要な施策を適切に実施するよう努めてまいります。

内航海運業につきましては、今後も産業基礎物資の輸送や海運へのモーダルシフトを担う基幹的インフラとして、安定的な輸送を確保していくこ

とが必要であり、社会全体で生産性の向上が求められているところです。九州運輸局では、現下の内航海運を巡る諸課題の早期解決と内航海運の目指すべき将来像として定めた「内航未来創造プラン」における各施策の実現に向けた取組みを着実に進めてまいります。

とりわけ、内航船員の高齢化、船員不足の課題につきましては、若年船員の確保・育成が急務であるため、同プランの具体的施策である「船員の教育体制の抜本改革」、「船員のための魅力ある職場づくり」、「働き方改革による生産性向上」の実現を図りつつ、就業フェアの開催、出前講座、インターンシップ、船員確保計画の認定事業者への助成等、内航船員を志向する若者の拡大に向けての取組みを継続してまいります。

さらに、船員を含む海事産業全般に対する認知度の向上、理解の醸成を図るため、小中学生や教育関係者を対象とした海事産業見学会の実施や小中学校の先生に海事教育を授業に取り入れていただくよう、教育委員会や学校、地域と連携して取り組んでまいります。

また、船舶の高齢化の課題につきましては、「登録船舶管理事業者制度」を活用した経営基盤強化への取組みを促進するとともに、計画的な船舶の建造を図るための効果的な方策の検討、並びに支援する取組みを継続してまいります。

港湾運送事業につきましては、アジアの経済発展などを背景に世界の海上荷動量は拡大し、これを反映して船舶の大型化やハブ港湾化競争が激化するとともに、船社アライアンスや定期コンテナ船事業統合など、わが国港湾や港湾物流を取巻く環境は大きく変化している状況です。東アジアのゲートウェイとしてのポテンシャルを活かしながら、九州運輸局では今後とも港湾機能の向上や国際競争力の強化を図るための諸施策等を通じ、その発展に努めてまいります。

造船・船用工業を取り巻く環境は、総じて厳しい状況が続いてきましたが、円高の是正、NOx規制等の新基準対応の駆け込み発注などにより、足下の工事量は確保されています。一方、平成29年度の新造船受注契約については、ばら積み貨物船を中心に大幅に回復し前年度比83.1%増加となりましたが、依然として、中国と韓国の過剰な建造能力による低船価での受注拡大、政府系金融による支援、ロット受注、長引く国際海運市況の低迷や深刻な船腹過剰感などにより、厳しい受注競争状況にあることから、今後も引き続き注視してまいります。

また、海事分野における船舶の開発・建造から運航に至る全てのフェーズで生産性向上を目指すi-shipping（海事生産性革命）につきましても海事業界と連携しながら推進してまいります。

さらに、海事産業における女性活躍推進に向けた取組みとして、「輝け！フネージョ★」プロジェクトのもと、海の世界で働く様々な職種の女性た

ちが感じる仕事のやりがいなどについて、造船・舶用工業関係企業の先進的な取り組み事例について紹介してまいります。

九州運輸局としましても、i-Shippingによる造船の輸出拡大と地方創生を推進するとともに、地域の人材育成・確保並びに「外国人造船就労者受入事業」を通じて地域造船業の成長を後押ししてまいります。

本年も職員一同、海事産業が私たちの暮らしに重要な役割を果たしていることについて内外に積極的にアピールを行い、その発展に大いに貢献できるよう努めてまいりますので、ご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様にとりまして、本年がより良い年になりますよう祈念しまして、私の年頭の辞とさせていただきます。